

# 郷土の恵みで 障子貼替&塗り壁 烏山和紙

# 「地産地消」栃木県内の自然素材でエコバウリフォームしよう!



烏山和紙は皇室儀式「懐紙」、無形文化財としても有名。その綿密な紙肌と丈夫さから障子・襖はもちろんの事、現在インテリアとして、近年注目を集めています。内装壁紙、照明への活用など使い方は色々。古くて新しい自然健康素材です。



烏山へ行くと伝統工芸を体験できる和紙会館があります。和紙を利用した手作り照明がおしゃれです。

烏山和紙が歴史に登場したのは奈良時代の頃、以来今日まで絶えることなく受け継がれてきました。

## 自治医科大学の卒業証書にも使われている 「烏山・和紙」の作成にチャレンジ



和紙の原料は桑科の楮とジンチョウゲ科の三椏で烏山紙は日本で最も優良な那須楮を使用しています。

作業工程

- 1 煮 塾 那須楮を3時間蒸す繊維を傷つけないように
- 2 あく抜き 蒸し上がった楮を流水で洗う
- 3 漉 取 洗った楮の皮を1本ずつ流水で塵を取除く
- 4 叩 解 漉取後の繊維を細かく砕く
- 5 紙 漉 叩解した紙料を水の中で攪拌し繊維同士を絡める
- 6 圧 搾 紙漉後の紙料の水分を8時間かけ水を搾り出す
- 7 乾 燥 圧搾後の紙を一枚ずつ乾燥板につけ天日干
- 8 完 成 形を整え裁断

紙作りに参加できたのは紙漉だけでしたが、今回の和紙製作体験のなかで丈夫で長持ちする紙のポイントを和紙会館鎌田さんに教えてもらいました。

原料にパルプを使うと日光により繊維を劣化、変色させるリグニンが発生し紙が黄色く変色します。

良質のものはその物質を殆ど含まないため劣化しにくく色染めすることでさらに強度が増します。

# 鹿沼土

鹿沼土は全国でも有名な土の産地。約3万2千年前の赤城山の火山灰で保水成分(アロフェン)を多く含み、通気性・雑菌のいない清潔な土として、新しい「自然健康塗り壁材」として今注目されています。



## 「鹿沼・土壁」製造会社・理研をご紹介します。

鹿沼土壁の特徴は

- ・呼吸性能(調湿効果)
- ・結露抑制
- ・感染症の緩和
- ・断熱性

リフォーム活用は

- ・マンション
- ・病人部屋
- ・病院 学校
- ・ペットを飼っている家

火山灰の元色はクリーム色

そこに顔料として焼赤球土・若竹土・中国黄土を混ぜ4色のみの製造となっています。但し、自然素材のため材質のきめ細かさ、色が多少異なる場合がある。

商談室



理研さんの商談室は床に大谷石、腰壁は杉材の羽目板、上部には鹿沼土塗り壁、天井には松材を使用。栃木県産の建材だけで作られたこの商談室は、地場消費型環境エコとしてNHKでも報道されました。

ハーフビルドの様子



近頃ハーフビルドを希望されるお客様が非常に多いですね。

先日の雀宮の客様は材料だけ購入し、ご家族と一緒に休日を利用して塗り壁を施工していました。

天然の塗り壁の仕上がりには完成の定義がありません。

その時の気分、お客様好みとその素材の仕上がりだと考えています。

今、そうしたビルダーの方でももっと使い易い様に商品開発の見直しと自主施工のバックアップ体制の構築に東奔西走しています。

今後はこうした需要が大変多くなると思います。

(株)理研代表取締役 渡辺社長談

私たちが住む環境とは...

四季があり気温・温度の変化がある日本、この国伝統の建築にはその変化に対応できる材料(木材・土壁・紙・畳)が多用されていましたが高度成長期を経たその産物として現在さまざまな住宅からの健康被害に悩み続けています。人間が快適に過ごせる家全体の湿度は40から70%だと言われ、又インフルエンザなどのウイルスも湿度と深く関係しているとも言われております。

今回、自然素材の持つ力を再認識し時代を超えて再度自然の恵みを認識させられた様に感じました。

リフォーム・アップル 北島亨